平成最後の成人式

～夢と希望を胸に、新時代への一歩を踏み出す～

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今年、成人を迎えたのは、平成10年４月２日～平成11年４月１日に生まれた人で、489人が新成人となりました。

亀山市では、１月13日に市文化会館で成人式を開催。笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝い、そして大人への新たな一歩を踏み出しました。

新成人のことば

※新成人を代表して発表された「新成人のことば」を紹介します。

小菅翔太さん
（阿野田町）

私は小さい頃から、物づくりが大好きで、車をいじるのが趣味の父と一緒に、タイヤ交換や洗車などをしていました。普段はあまりしゃべらない父ですが、車やバイクのことになると饒舌（じょうぜつ）になり、そんな父との時間は、自分にとって大事な時間でした。また、独学で車やバイクの知識を得ている父を今も変わらず尊敬しています。

そんな父の影響もあり、高校進学のときに、将来は物づくりがしたいと考え、現在、鈴鹿工業高等専門学校に在学しています。在学中は寮で生活をしており、寮生活では、先輩や後輩たちとの共同生活のなかで、仲間との絆の大切さや規則の大事さを学びました。さらには、実家のありがたさや温かさを実感する期間でもありました。

そして、私はこの４月から、静岡県にある自動車部品開発の会社で働き始めます。内定している会社では、車のメーターの開発に携わる予定です。車のメーターは、運転中は誰もが目をやる部分で、人の目にふれるものをつくりたいという、私の目標に近づくことができました。初めての県外での生活に、不安がないわけではありませんが、目標だった物づくりができるという喜びの方を強く感じています。

今後は新社会人として、自分が担う責任を最後まで果たし、新しい環境のなかで、自分をもっと磨いていきたいと思います。

最後になりますが、私は多くの人に支えられ、ここまで大きく成長することができました。特に、両親には、日頃から助けられてばかりです。そんな両親に今一番できる恩返しといえば、社会人として自立することだと考えています。

これからも困難や壁を乗り越え、一歩ずつ前に進み精進し続けることをお誓いし、新成人の言葉とさせていただきます。

川出真歩さん
（南鹿島町）

私には尊敬する方が２人います。

１人目は、高校生のときにお世話になった接骨院の先生です。私は高校進学時に陸上部に所属しましたが、１年生の秋に足を痛めて以後ケガが絶えず、通院とリハビリを約２年間繰り返すことになってしまいました。1,000分の１秒を争う厳しい陸上の世界で、納得のいく走りができない日々が続き、投げやりな気持ちになることも多く、陸上をやめてしまおうかとも思いました。しかし、そんなときに落ち込んでいる私を励まし、勇気づけてくれたのが接骨院の先生でした。気持ちを閉じ込めがちな私の性格に気付き、診察の合間に色んな話をするなかで私の気持ちを聞き出しては、私が嬉しいときには一緒に喜んでくれて、落ち込んでいるときには自然と笑顔にさせてくれて、悩んでいるときにはそっと足元を照らしてくれました。そのおかげで苦しいリハビリ生活を乗り越えることができ、結果、高校最後の試合では自己ベストを更新し、悔いのない高校生活を送ることができました。

２人目は、小学２年生から今も通っている書道教室の先生です。先生はいつもパワフルで明るく、先生の周りは笑顔であふれています。常に人を楽しませることを考えている先生からは、書道の楽しさだけでなく、礼儀作法、そして人としてどうあるべきかということを教えていただいています。このような出会いや環境に恵まれ、私は今、書道の先生を志し大学で学んでいます。そして、今の私の夢は、書道を通じて、子どもたちに自分らしく生きることのすばらしさ、決してあきらめない強い心、そして人は支え合って生きているんだと伝えることです。

私は成人を迎えるまで多くの人に出会い、支えてもらってきたからこそ今の自分があると思います。部活仲間や友達、色んなことを教えてくれた先生、地域の方、そして、誰よりも私のことを考えて、見守り、大きく成長させてくれた両親。これからも、多くの出会いを大切にし、さまざまな人と支え合いながら、すてきな大人になっていきます。